

2003年3月9日メッセージノート

赦すということ (Mat. 6:14-15/Ep. 4:25-32)

「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」イエス様は主の祈りを教えられた後、12節の「私たちの負い目を赦してください、私たちも自分に負い目のある人を赦しましたように」についてだけ、あらためてこう教えられたのです。イエス様が特にここを強調なさったのはなぜでしょうか？それは私たちが互いに赦しあうということが非常に重要だからです。

A 赦すとはどういうことか？

1) 怒り憤りを持ち続けないこと
死刑を無罪放免とする
相手を有罪と定めない

2) 相手のどんなことを赦すのか？
「過ち」「罪」

B 赦さなければならない理由とその方法？

1) 赦すという意志
怒り憤りを持ち続けるなら自分が罪を犯すことになる
それはあなたの人生のモチベーションが「神様に喜んで従う」ことではなく
「怒りや復讐」

2) 赦せないという気持ち、怒り、憤りをどう処理するのか？
主の前に持ってゆく

メッセージのポイント

私たちが神様を父と呼ぶことができるのは、私たちの罪を赦し子としての身分を与えてくださったからです。イエス様は、神様との関係を回復された私たちに「神に赦されているように、互いに赦しあうことこそ人間関係の原点だ」と強調されました。赦さないと言う意志、赦せないという感情を野放しにしておくなら、単に心の平安が損なわれるということにとどまらず、それは怒りや憤りとなって私たちの心を占領しやがて神様につながる枝であったはずの私たちを弱らせ、よい実(御霊の実)を結ばなくさせてしまいます。

話し合いのためのヒント

- 1) なぜイエス様は主の祈りの中でも特に赦しあうということを強調されたのでしょうか
- 2) 赦せないという感情をどう扱ったら良いか話し合ってみましょう